

平成１９年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第１回勉強会の結果概要

1. 日 時 平成１９年４月２３日(月) １８：００～２０：１０
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 ３４名（委員９名、一般４名、県市８名、関係者４名、事務局９名）
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第
 - 1) 護岸検討委員会事務局からのお知らせ
 - 平成１９年度護岸検討委員会のスケジュールについて
 - 平成１９年度第１回現地視察会・公開生物調査の開催結果
 - モニタリング調査結果の検証手法（景観）
 - 2) 塩浜地区護岸改修にあたっての景観について
 - 千葉大学大学院 宮脇准教授による講演
 - 3) その他

6. 概 要

- 1) 護岸検討委員会事務局からのお知らせ
 - 平成１９年度委員会のスケジュールを説明
 - 平成１９年度第１回現地視察会・公開生物調査の開催結果を説明
 - ・低潮帯～中潮帯にマガキの付着が確認された。
 - ・カキ殻等が堆積した石積み間隙は、ゴカイ類、カニ類、小型貝類の棲み場として利用されている。
 - ・高潮帯～中潮帯にフジツボの着生が確認された。
 - モニタリング調査結果の検証手法について説明
- 2) 塩浜地区護岸改修にあたっての景観について
 - 千葉大学大学院宮脇准教授による、護岸の景観等についての講演
 - ・外国及び国内他都県における景観の事例について説明
 - ・塩浜について
 - 背後地の街づくりがどのような計画となるのか、連携を密にしていく必要がある。
 - 海に向いた道路を計画して、水辺を感じるアクセスが基本と考える。よって、道路の計画が大きなウエイトを占める。
 - 現状は海岸線が一直線であるが、人が水辺に親しむには曲線も必要と考える。
 - 周辺環境の整備も必要であり、それには市の協力が必要である。
 - 地区計画の検討にあたり、商業施設など建物の色に制限を加えるのもよい。
 - 地区計画を決定する前に、いろいろな意見を取り入れて進めてほしい。

○主な意見

- ・三番瀬を考えると、景観に対して4市(浦安市・市川市・船橋市・習志野市)がバラバラではいけない。共通の理念を持つべきである。
- ・景観と生態は一体である。昔の三番瀬は今のような景観ではなかった。石積護岸の前面に干潟が望ましい。
- ・国・県の予算も厳しいので夢を実現するには民間から財源を入れるのも必要ではないか。
- ・スケールを考えて本気で議論しなくてはならない。お互い知恵を出して進めよう。
- ・アンケートを行うにあたり、理想的なものが2つ、3つあった方がよい。
- ・ビューポイントはしっかりとおさえてほしい。
- ・1月の見学会とは護岸の状況が変わってきており、HWLより下は白い石の色も大分いい色に変わってきている。
- ・景観を考える手法としてアンケートは有効である。検討会の場でよく議論して進めていくこと。
- ・人々が行かなくなるとゴミなどが捨てられる。人がいない街はよくない。
- ・護岸の白い石が異様である。吉野川は青い石でつくられており、滑らない石である。
- ・その地域から出る石を利用できないか。もう一度検討した方がよいのではないか。
- ・景観については、何年か先をイメージしたものを示すことも重要である。

3) その他

- ・第13回護岸検討委員会を、5月25日(金)18時から市川市八幡会館で開催する。